

ドイツ・ヴュルツブルク大学での長期滞在

化学専攻 博士課程 2年 土屋瑞穂

2015年11月10日から2016年2月6日まで、ドイツ・ヴュルツブルクに滞在し、Julius-Maximilians-Universität WürzburgのTodd B. Marder Groupにおいて研究活動を行った。研究室は全体で40人程度と比較的規模が大きい研究室であり、構成メンバーもドイツ国内のみだけではなく、ヨーロッパ、北米、アジア等世界各国からの留学生やポスドクが所属していた。研究テーマも多岐に渡っており、触媒化学、光化学、錯体化学から生化学まで幅広く扱っていた。

滞在期間中は環状共役分子中にロジウム金属を有するRhodacycleのサブグループに所属し、研究を行った。この研究テーマは錯体化学から光化学、光物理までを扱っており、自身の研究テーマと近かった。期間中は合成実験を進めるだけでなく、同じサブグループ内のメンバーを中心にディスカッションを行ったり、研究室のセミナーに参加をしたりと、普段の活動だけでは得られないような経験をする事ができた。特に、11月14日-16日にはMarder先生の60歳誕生会の記念シンポジウムが開催され、OB等の講演に参加するだけでなく、自身の現在の研究について発表を行い、現研究室メンバー以外とのディスカッションも行う事ができた。

3か月という長期間の滞在の機会を与えてくださったALPS、指導教員の西原寛先生、受け入れ先のTodd B. Marder先生とグループのメンバーの皆様には心より感謝申し上げます。



Würzburg の街並み